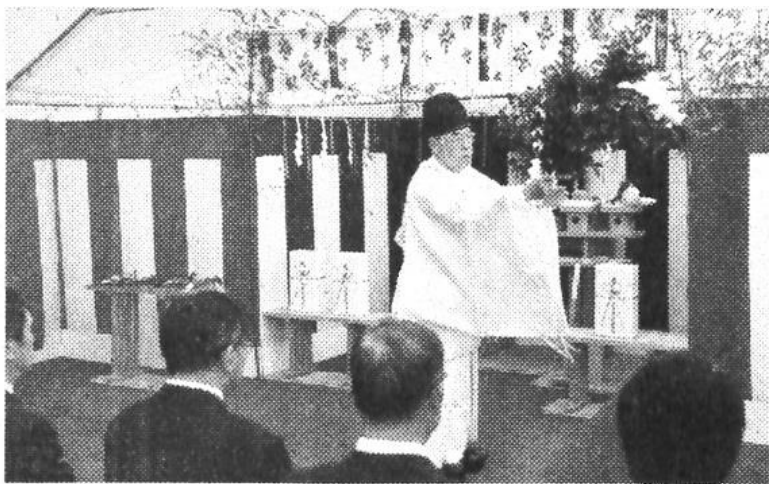


新病院は120床増

朝霞台中央 総合病院 移転地で地鎮祭

朝霞市溝沼の東洋大学朝霞キャンパス総合運動場・総合体育館跡地に新築移転する朝霞台中央総合病院の地鎮祭が15日、同跡地で行われ、富岡勝則市長らが出席した。高度急性期医療、がんなどの専門医療を担い県南西部地域医療の核となる新病院の完成へ期待を膨らませた。

新病院は2017年秋に完成し、18年1月にオープン予定。



多くの関係者を迎えて行われた地鎮祭。15日午前、朝霞市溝沼

定。東武東上線朝霞台駅近くの同市西弁財1丁目にある現病院からの全面移転に伴い、敷地面積は4247平方メートルから2万3千平方メートルへ約6倍に、延べ床面積は約8400平方メートルから約2万5千平方メートルへ約3倍に拡大する。敷地の中央に7階建ての新病院を建設し、北側に271台の来客用駐車場などを配置する。同駅から徒歩約10分と利便性も確保する。

新病院はベッド数446床で現在から120床増。手術室が4室増えて9室になるほか、ICUなどの特定集中治療室12床、脳卒中ケアユニット9床、てんかん治療センター10床も整備する。

地鎮祭は病院、地域関係者ら数十人が出席し、工事の安全などを祈った。医療法人社団武蔵野会の中村毅理事長は「朝霞地区の主力病院。周辺病院とも連携し、充実した医療を提供していきたい」。同

病院の村田順院長は「改築では年間約4800件の救急受け入れのうち2千件に影響があり、全面移転に踏み切った。新病院は駐車場も十分。救急に力を入れ、朝霞地区を安心して暮らせるまことにしたい」と力を込めた。富岡勝則市長は「二次救急や高度専門医療を充実させ、小児医療や災害時医療にも注力される。地域に密着した医療機関の核は市として心強く、私も期待している」と話した。

(江田崇)

